学長のことば 平成30年度入学式式辞（平成30年4月）

皆さん、名古屋工業大学にご入学おめでとうございます。ご臨席のご来賓ならびに列席の理事・副学長、部局長をはじめとする教職員一同とともに、皆さんのご入学をお祝いしたいと思います。日々勉学に勤しんできた努力が実を結び、晴れて入学されたことに敬意を表すとともに、これまで皆さんを力強く支えてこられたご家族、関係の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

約一世紀前、教職員30名、学生100名で開校した高等工業学校は、科学技術の進歩と高等教育の普及に伴い、国立大学工学系の中では、教職員約530名、学生約5700名の屈指の規模を有する工学系単科大学として発展してまいりました。時代の変遷とともに進化し続ける実践的な名工大の学風が、今日まで7万人を超える優れた人材を社会に送り出し、数多くの卓越した研究実績を築いてきたことは言うまでもありません。皆さんの先輩方の足跡は、世界中至る所で見つけることができます。本日からその後輩であることに、皆さん、大いに誇りを持っていただきたいと思います。

また、中京地域は、わが国ひいては世界のものづくり産業の卓越した集積拠点です。この地域で生まれ、産業界の発展とともに育ってきた名工大が、テクノロジーの宝庫と称され、世界の発展に極めて大きな役割を担ってきたことを理解いただき、皆さんもその担い手になることを、改めて自覚いただきたいと思います。

さて、いま、世界は大きな転換期を迎えています。その方向を決める最大の要因は科学技術であると言っても過言ではありません。第一次産業革命を転機に、科学技術は急速に発展し社会も大きく変化してきました。そして、その時々において、社会が求める人材は多様化し、変化し続けています。皆さんは、高度な専門性と実践的な技術の修得を期待して名工大に入学されたのではないかと思います。45年前、私が名工大を選んだ理由も同様です。しかし、専門的な知識・技能以外に大学において身につけて頂きたいことがあります。それは、人間力です。人間は個体として生まれてきますが、取り巻く環境・社会の中で生きています。人間力とは、社会を構成し運営しながら、一人の人間として力強く生きていくための総合力です。そこで、今日は私の体験を基に、重要となるポイントとして三つ、ご紹介したいと思います。

一つ目は現実世界から得る実感です。情報化社会の中で育った皆さんなら、知識と情報の収集については、持ち前の好奇心と粘り強さを発揮して、難なく乗り越えられると思います。しかし、個としてのオリジナリティ、他者とのコミュニケーション、コラボレーション、そうした人間力の磨きについてはいかがでしょう。例えば、ダ・ヴィンチの描いたモナ・リザ。ネットで鑑賞するのとルーブル博物館で鑑賞するのとでは全く違った印象を受けるはずです。その時の部屋の雰囲気、気分など、現実で得る実感により情報は厚みを増し、記憶に深みを与えます。それが個性を育み、人間力の深みにつながります。

ものづくり企業の製造現場では、「現地、現物、現実」の三ゲン主義という考え方があります。現場に足を運び、現物を手に取り、現実を目で見て事実を知る。トヨタ生産方式で有名な「改善活動」の根底にある考え方であり、この方式を提案、実践した大野耐一氏と鈴村喜久男氏は本学の卒業生でもあります。AI、VR,ロボットなどICTの急速な進展によりデジタル社会が到来し、「データの世紀」と呼ばれる時代になっても、動かしているのは現実世界の人間です。

したがって、二つ目に重要となるのが、共感力です。現在のネット社会では情報さえあれば生活ができてしまう、ともすれば人間同士のつながりも情報を駆使してまかり通ってしまう。しかし、個が社会と関りを持つなかで、他者と感情、心を通わせて協働する、すなわち共感していく力の必要性はますます高まることでしょう。京都大学総長で霊長類学者、ゴリラ研究で有名な山極寿一先生も「ゴリラは相手の目を見て感情を読み取れる。人間にもその共感能力があるのに、ネット社会の発達によって、対人関係が希薄になりその共感能力が減退しつつある」と警鐘を鳴らしています。グローバル社会では個人主義が強まっていますが、ひとたび人間社会という視点に立てば、他者を尊重しながらコミュニケーションを取り、共感力に加え直感力を働かせて様々な難題を乗

り越えていく・・・モノづくり、コトづくりに関わる不可欠な能力として、今こそ人間の持つ能力を発揮するとき、と私は考えます。

そして三つ目のポイントは他者との差を見極め、そこから新たな価値を見出していく力です。日本映画の巨匠、黒澤明監督はこう言ったそうです。アメリカ映画の西部劇に出てくる乾いた風と土埃、あのスケールに我々は到底敵わない。けれど日本特有の雨ならば勝負できる、と。黒澤監督は、雨のアクションシーンを多く使用し、"雨"といえば黒澤映画、と形容されるほど、世界的に有名となりました。風と土埃に代わる、雨という日本特有の気候にいち早く気づいて価値を見い出し、強みに変えてしまう、その凄さに着目していただきたい。他者との差や自分自身の得手不得手を見極め、新たな手段を選び、新たな価値を創造していく・・・様々な専門分野が融合して新たな科学技術分野が作られていく、科学技術の世界にも通じるものがあります。

科学技術のフロンティアに立つ皆さんが、バランス感覚のある、真の工学エリートになるために、最先端の知識と技能を身につけるだけでなく、現場感覚を身につけ、人と人との交流や信頼関係を構築し、ものごとを見極める目を養って人間力を磨いていくことが重要であることをご理解いただけたと思います。あらゆる分野に関心を持ち、見聞を広め、体験を重ね、つねに自分の考えを持って学生生活を過ごして下さい。多くの人と出会って交流を深めて下さい。長い人生の中で学生時代は、感性の引き出しを増やす絶好の機会です。皆さんが社会に出るとき、必ずやそれは皆さんの財産となり、人間としての器の大きさを物語ります。あいつなら何て言うかな、あいつなら任せても大丈夫・・・互いにそう思えたら、素晴らしいではないですか！

最後になりますが、自立して力強く生きる皆さんの意欲を、名工大は全力で支援いたします。実践的工学エリートとして皆さんを育成いたします。そのための環境作り、整備を惜しみません。諸先生方、先輩方の声に、柔軟に耳を傾け、工学フィールドの道なき道を果敢に切り拓いて下さい。そこに見える扉のカギを握っているのは、皆さんです！期待しています。

名古屋工業大学は、教育研究環境の充実と改善をはかっていくことを強く約束し、私の式辞といたします。

平成３０年４月６日
名古屋工業大学長　鵜飼裕之

学長ごあいさつトップへ戻る

- **受験生の方へ**
- **在学生の方へ**
- **卒業生の方へ**
- **企業・研究者の方へ**
- **地域・一般の方へ**

国立大学法人 名古屋工業大学

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 **お問い合わせ先一覧**
© 2013 Nagoya Institute of Technology. All rights reserved.